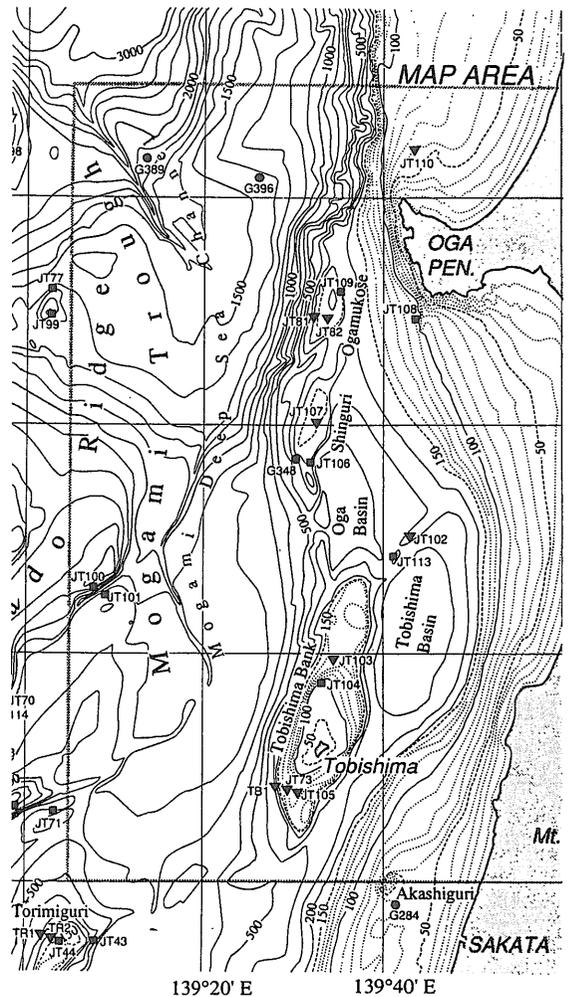


20万分の1「秋田西方海底地質図」

岡村行信¹⁾・森尻理恵²⁾・佐藤幹夫¹⁾

秋田西方海域の地形はほぼ南北方向に伸びた地形的高まりと盆地が分布している(第1図)。それらの大部分は第四紀と呼ばれる最近約200万年間に東西方向の圧縮応力によって形成されたものである。ただし、海底下には、日本海とほぼ同時期(2,000-1,500万年前)に形成された古い堆積盆地が隠されている。地質図域のほぼ中央を南北に縦断する最上トラフは、最近約200万年間に形成された凹地であるが、その北部には古い堆積盆地が伏在している。最上トラフの西側には佐渡海嶺、東側には出羽堆列と呼ばれる海嶺が分布するが、それらは古い堆積盆地が最近隆起して形成されたものである。佐渡海嶺は本地質図にはその一部しか含まれていないが、佐渡島を含み南北に約250km連続する大きな隆起帯を形成し、出羽堆列は男鹿半島から飛島まで長さ約100kmの断続的に伸びる隆起帯である。これらの隆起帯とその間の最上トラフは全体として、南北方向の高まりと低地が波長約50kmで繰り返し(波曲構造)を形成している。さらに陸側に、ほぼ同じ波長で佐渡海嶺、東側には出羽堆列(山脈)と盆地が繰り返している。また、佐渡海嶺と出羽堆列は逆断層を伴った小規模な海嶺の集合体からなる。出羽堆列の陸側には、厚さ5,000mに達する大規模な堆積盆地が形成されている。これは、古い堆積盆地に相当し、秋田県に産出する石油資源はこの堆積盆地に胚胎する。残念ながら、出羽堆列の西側(沖側)には顕著な堆積盆地は分布しないことから、そこに海底油田が分布する可能性は少ない。



第1図 秋田西方海域の海底地形図および試料採取地点

1) 地質調査所 海洋地質部
2) 地質調査所 地殻物理部

キーワード：海底地質図, 秋田西方, 日本海, 最上トラフ, 佐渡海嶺, 出羽堆列, 圧縮応力, 逆断層, 堆積盆地